

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

24.12.02

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日  
Date of Application:

2001年12月25日

出 願 番 号  
Application Number:

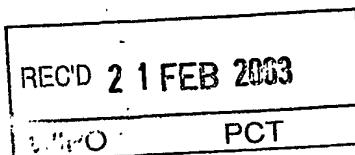
特願2001-391036

[ ST.10/C ]:

[ JP2001-391036 ]

出 願 人  
Applicant(s):

株式会社ウエルネス



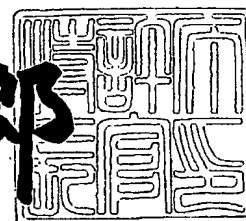
**PRIORITY  
DOCUMENT**

SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2003年 2月 4日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

太田 信一郎



出証番号 出証特2003-3003530

【書類名】 特許願

【整理番号】 P050112-01

【提出日】 平成13年12月25日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A01K 1/00  
B60R 27/00

【発明者】

【住所又は居所】 大阪市淀川区塚本3丁目16番31号 株式会社ウエル  
ネス内

【氏名】 野村 修之

【特許出願人】

【識別番号】 398052140

【氏名又は名称】 株式会社ウエルネス

【代表者】 野村 修之

【代理人】

【識別番号】 100072213

【弁理士】

【氏名又は名称】 辻本 一義

【電話番号】 06-6766-6111

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 008958

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 未知エネルギー発生器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 中央に穴（1a）を設け、その内周面に螺旋溝（1b）を形成し、さらに熱処理を加えた六角形の金属片（1）を、最外周の金属片（1）の穴（1a）を結ぶ線が六角形になるように複数個並べて組合せたことを特徴とする未知エネルギー発生器。

【請求項 2】 金属片（1）の熱処理温度が、1, 0 0 0 ～ 1, 2 0 0℃で、熱処理時間が、3 0 ～ 9 0 分であることを特徴とする請求項 1 記載の未知エネルギー発生器。

【請求項 3】 金属片（1）を複数段縦に重ねて並べたことを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の未知エネルギー発生器。

【請求項 4】 金属片（1）の穴（1a）の中心に棒（4）を挿通し、さらに外周を結束具（5）で止めたことを特徴とする請求項 3 記載の未知エネルギー発生器。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

この発明は、未知のエネルギーを発生する未知エネルギー発生器に関するものである。

【0 0 0 2】

【従来技術】

現在のところ「気」とか「宇宙エネルギー」等の色々な説があり実体は解明されていないが、六角形の物体や螺旋形の物体が未知のエネルギーを放出することが従来より知られており、土地の活性化やストレス解消治療等に色々な分野に利用されている。

【0 0 0 3】

しかしながら、この未知のエネルギーについて色々と研究が行われているが、得られる効果が少なく充分な利用は行われていなかった。

【 0 0 0 4 】

例えば、本発明の未知エネルギー発生器と同様な効果が得られるものとして埋炭が知られているが、埋炭を行う場合には、地面に直径 1 m・深さ 1 m の円柱穴を数カ所掘削し、そこに各 5 0 0 リットル、合計 1, 0 0 0 リットル以上の炭を埋める必要があり、大きな場所と労力が必要であるという問題点があった。

【 0 0 0 5 】

患者の治療用に利用したものとしては、特開平 7 - 4 0 8 4 号があるが、部屋を六角形状の穴を多数形成した板で囲む必要があり、これもまた大きな場所と労力が必要であるという問題点があった。

【 0 0 0 6 】

【発明が解決しようとする課題】

そこでこの発明では、上記従来の問題点を解決し、簡単な構成で、しかも産業上利用可能な効果が得られるようにした未知エネルギー発生器を提供することを目的とする。

【 0 0 0 7 】

【課題を解決するための手段】

そのため、この発明では、中央に穴 1a を設け、その内周面に螺旋溝 1b を形成し、さらに熱処理を加えた六角形の金属片 1 を、最外周の金属片 1 の穴 1a を結ぶ線が六角形になるように複数個並べて組合せた未知エネルギー発生器とした。

【 0 0 0 8 】

この発明では、六角形の金属の中央に穴 1a を設け、さらにその内周面に螺旋溝 1b を形成するだけでなく、熱処理を加えることによって高いエネルギーを発生できるようにした。さらに、最外周の金属片 1 の穴 1a を結ぶ線が六角形になるように複数個並べることにより、発生するエネルギーをより高めるようにした。

【 0 0 0 9 】

前記金属片 1 の熱処理温度は、請求項 2 に記載のように、1, 0 0 0 ~ 1, 2 0 0 °C で、熱処理時間が、3 0 ~ 9 0 分であるようにすることが好ましい。

【 0 0 1 0 】

このようにすれば、高いエネルギーが発生するようになる。

【0011】

請求項3に記載のように、請求項1又は2に記載の構成に加え、金属片1を複数段縦に重ねて並べるようにすることが好ましい。

【0012】

このようにすれば、使用する金属片1の数が増え、より高いエネルギーが得られるようになる。

【0013】

請求項4に記載のように、請求項3に記載の構成に加え、金属片1の穴1aの中心に棒4を挿通し、さらに外周を結束具5で止めるようにすることが好ましい。

【0014】

このようにすれば、使用する金属片1がバラバラにならず、取り扱いが容易になる。

【0015】

【発明の実施の形態】

以下、この発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。

【0016】

図1は、この発明の未知エネルギー発生器の最小単位を示す斜視図である。

【0017】

この発明の未知エネルギー発生器は、図1に示すように、中央に穴1aを設け、その内周面に螺旋溝1bを形成し、さらに熱処理を加えた六角形の金属片1を、7個組合せたものであり、最外周の金属片1・・・1の穴1a・・・1aの中心を結ぶ線が六角形になるように並べてある。

【0018】

前記金属片1に使用する金属としては、鉄又はステンレス等の鉄合金が使用される。使用する金属片1の大きさは、任意であるが、対角線上の寸法が5～20mm程度のものを採用することが好ましい。

【0019】

金属片1の材料としては、市販の六角ナットを流用することができる。市販の六角ナットを使用すれば、安価且つ容易に調達でき、熱処理を加えることによっ

て、この発明に使用する金属片 1 となる。

【 0 0 2 0 】

金属片 1 に施す熱処理は、1, 0 0 0 ~ 1, 2 0 0 ℃の温度で、3 0 ~ 9 0 分間処理することが好ましい。

【 0 0 2 1 】

この発明に使用する金属片 1 が、高い未知エネルギーを発するのは、熱処理することにより金属片 1 の結晶構造が変わるためと考えられる。

【 0 0 2 2 】

この 7 個の金属片 1 は、最外周の金属片 1 . . . . 1 の穴 1a . . . . 1a の中心を結ぶ線が六角形になるようにして使用される。

【 0 0 2 3 】

図 1 の実施例では、金属片 1 を 7 個並べた例を示したが、最外周の金属片 1 . . . . 1 の穴 1a . . . . 1a の中心を結ぶ線が六角形になれば良く、1 9 個、3 7 個、6 1 個、9 1 個、1 2 7 個、. . . を並べても実施できる。

【 0 0 2 4 】

図 2 の実施例は、金属片 1 を 3 7 個並べたものを上下方向に 3 列、合計 1 1 1 個使用し、円筒形のケース 2 に入れた例である。

【 0 0 2 5 】

ケース 2 の上下面はパンチングメタル 2a を使用し、金属片 1 とケース 2 の周面との間には、任意素材の充填材 3 を入れ、最外周の金属片 1 . . . . 1 の穴 1a . . . . 1a の中心を結ぶ線が六角形に保たれるようにしている。

【 0 0 2 6 】

図 3 の実施例は、金属片 1 の穴 1a の中心に棒 4 を挿通し、さらに外周を結束具 5 で止めた例である。

【 0 0 2 7 】

この実施例では、挿通する棒 4 として、金属製六角ボルトを使用した。六角ボルトを使用すれば、金属片 1 を上下に重ねた位置がずれなくなるだけでなく、金属片 1 を上下方向で別の部品を使用して固定する必要がなくなる。勿論、ネジ棒でも、プラスチック製の棒でも上下に重ねて固定できるものであれば実施できる

【0028】

最外周の金属片1・・・1の穴1a・・・1aの中心をを結ぶ線が六角形に保たれるようにするために、ボルトで固定して柱状にした金属片1を、さらに結束具5で止めている。結束具5としては、市販のプラスチック製のタイバンドを使用した。

【0029】

以上が、未知エネルギー発生器の説明であり、次に未知エネルギー発生器を使用して実験した例を示す。

【0030】

図3に示す未知エネルギー発生器を、乗用車の前部左右に各一個、後部左右に各一個、中央に一個、合計5個に配置し、燃費の変化を測定した。

(実験例1)

使用車種 三菱自動車工業株式会社製 ジープ (登録商標)  
平成6年式 排気量2,700cc  
内燃機関 ディーゼルエンジン  
(インタークーラー付きターボエンジン)

走行距離 421km

燃 費 15km/l (テスト前 10km/l)

(実験例2)

使用車種 トヨタ自動車株式会社製 ウィンダム (登録商標)  
平成11年式 排気量2,500cc  
内燃機関 ガソリンエンジン

走行距離 470km

燃 費 8.0km/l (テスト前 5.8km/l)

以上の通り、自動車に使用した場合には燃費が30パーセント以上向上した。

【0031】

次に、図3に示す未知エネルギー発生器を、養豚場において豚舎の四隅に各一個設置すると共に、養豚場の敷地の四隅に各一個設置し、変化を記録したところ

、次の結果が得られた。

(実験例3)

使用場所 埼玉県加須市 養豚牧場  
期 間 平成12年12月8日から一年間  
死亡率(事故率) 0.5パーセント以内  
(一般通常死亡率 15パーセント)

肥育日数 170日(設置前 200日)

これは、豚のストレスが本発明の未知エネルギー発生器により解消され、精神的にイライラしなくなり、その結果、飼料の食いが良くなるだけでなく、豚同士が喧嘩して噛みあうことがなくなり、怪我による細菌の感染による死亡がなくなるためと考えられる。

【0032】

以上が実施例であり、単独でも使用可能であるが、前記の実施例に示すように、この発明の未知エネルギー発生器で取り囲んで使用することが好ましい。

【0033】

尚、図2の実施例のように、内部を通水可能なケース2に金属片1を収納し、その中通水した水を、肥育牛に与えたところ、肥育牛の肝臓の病変による廃棄率(%)が減少すると共に、枝重(kg)の増加がみられた。

【0034】

【発明の効果】

この発明の未知エネルギー発生器では、上述のように、簡単な構成でありながら強いエネルギーが発生するようになり、産業上利用可能な効果が得られるようになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

この発明の未知エネルギー発生器の最小単位を示す斜視図である。

【図2】

金属片を37個並べたものを上下方向に3列、合計111個使用し、円筒形のケースに入れた未知エネルギー発生器の斜視図である。



【図 3】

金属片の穴の中心に棒を挿通し、さらに外周を結束具で止めた未知エネルギー発生器の斜視図である。

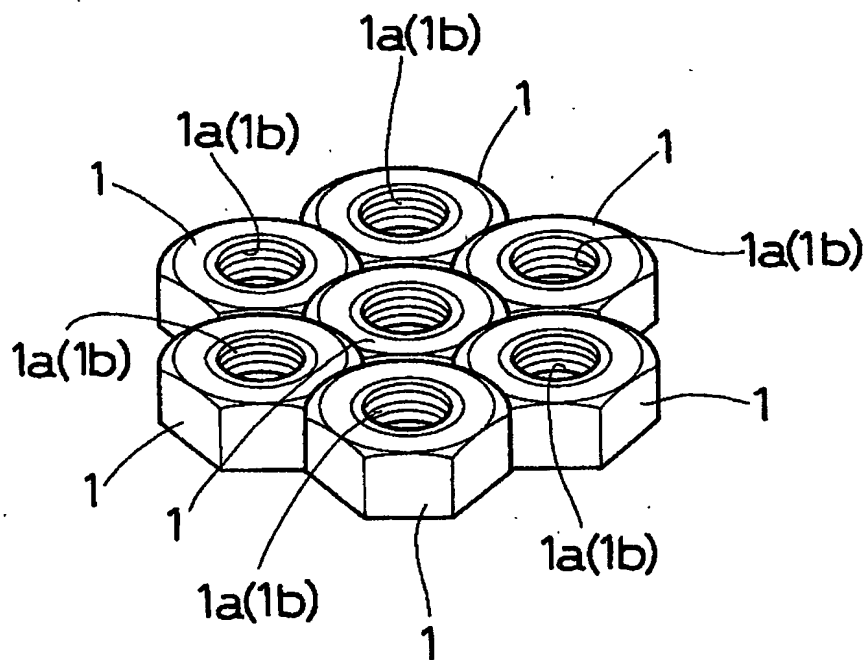
【符号の説明】

- 1 金属片
- 1a 穴
- 1b 螺旋溝
- 2 ケース
- 3 充填材
- 4 棒
- 5 結束具

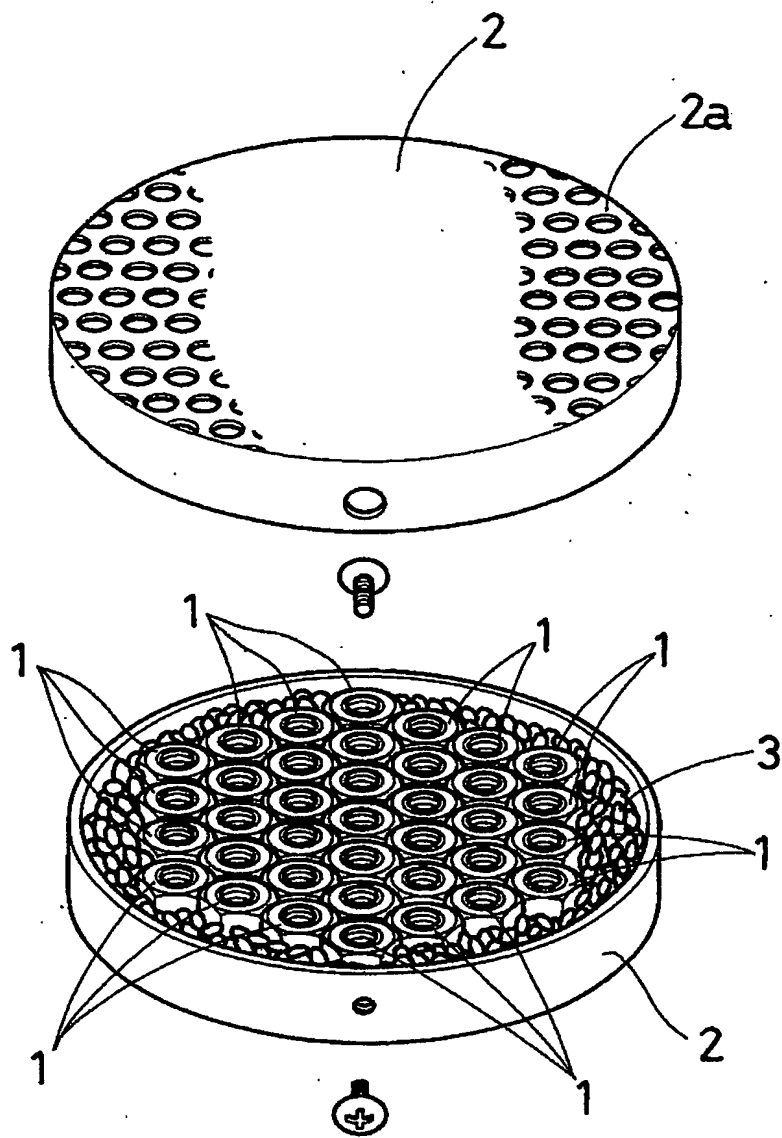
【書類名】

図面

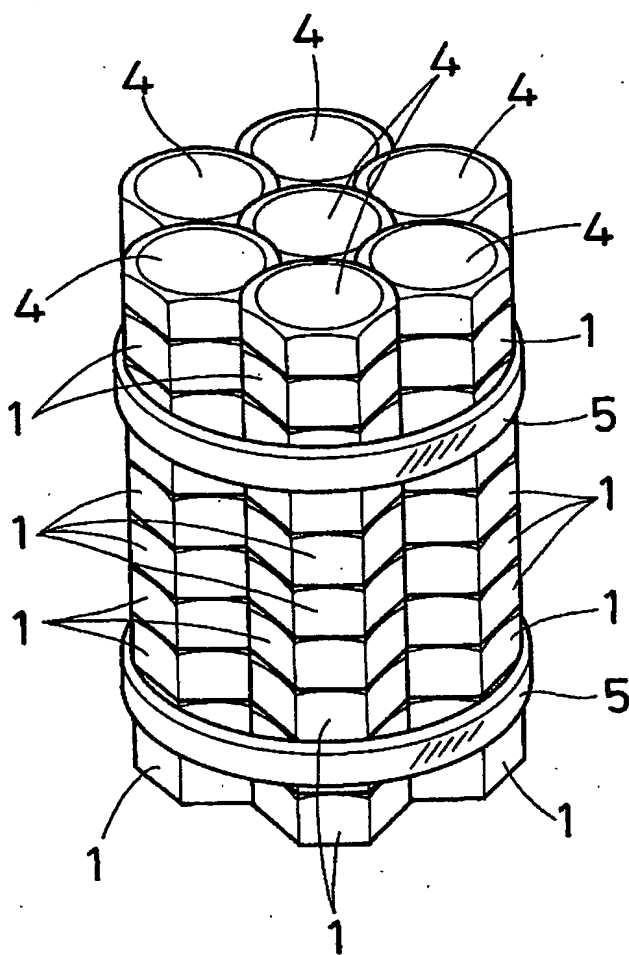
【図1】



【図 2】



【図3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 土地の活性化やストレス解消治療等に色々な分野に利用されている未知エネルギー発生器であって、簡単な構成で、しかも産業上利用可能な効果が得られるようにしたものである。

【解決手段】 中央に穴1aを設け、その内周面に螺旋溝1bを形成し、さらに熱処理を加えた六角形の金属片1を、最外周の金属片1の穴1aを結ぶ線が六角形になるように複数個並べて組合せた未知エネルギー発生器とした。前記金属片1の熱処理温度は、1, 0 0 0 ~ 1, 2 0 0 ℃で、熱処理時間が、3 0 ~ 9 0 分であるようにすることが好ましい。

【選択図】 図1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[398052140]

1. 変更年月日 1998年 7月28日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府大阪市淀川区田川1丁目9番1号

氏 名 株式会社ウエルネス

2. 変更年月日 2002年12月13日

[変更理由] 住所変更

住 所 大阪府大阪市淀川区塚本3丁目16番31号

氏 名 株式会社ウエルネス